

平成17年度事業報告

1 研究のテーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及びその年に使用される原料米の性質を早期に把握し、その原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としており、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析を中心として活動を行っている。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つものも会員として受け入れている。会員数は現在277名の個人と4機関からなっている。

酒米懇談会においては、地域単位での酒米に関する取り組み(1題)、原料米の開発に関する研究成果(2題)、低グルテリン米の開発と利用(1題)、米デンプンの構造(1題)、米の品種、産地判別技術(1題)など、様々な観点からの意見交換がなされ、参加者にとって大きな収穫であった。

原料米の全国統一分析は、16年度産米について例年どおり行い、98品種289点の原料米の分析値及び予測される性質について関係者に報告した。

平成17年度産米については早期に収穫された29点の原料米について分析を行い、12月初旬に各支部に報告した。また、12月中旬に各支部において分析が終了した43品種、95点について取りまとめるとともに、造り初期における各支部の酒造概況を取りまとめたものと併せて第1次の速報として関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 平成17年度酒米研究会総会、第31回酒米研究会

開催月日 平成17年5月25日(水)

開催場所 東広島市西条栄町

東広島市中央公民館

配布資料:平成16年度事業報告、平成16年度決算及び17年度予算案、平成16年度産米の分析結果及び平成17年度産米の分析計画等

ロ 第29回酒米懇談会

開催月日 平成17年10月7日(金)

開催場所 東京都 北とぴあ 7階第1研修室

講演内容 「JA越後さんとうの酒米の取組」(越後さんとう農業協同組合 水島和夫先生)、「酒米新品種「杜氏の夢」の育成」(兵庫県農林水産技術総合センター 吉田晋弥先生)、「福島県酒造好適米品種「夢の香」の開発」(福島県農業試験場 佐藤 弘一先生)、「低グルテリン米の開発と利用拡大に向けた取組」(独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 近畿・中国四

国農業研究センター 飯田修一先生)、「酒造原料米のデンプン分子構造と醸造適性」(独立行政法人酒類総合研究所 奥田将生先生)、「米のDNA品種・産地判別技術及びその食味評価への展開」独立行政法人食品総合研究所 大坪研一先生。

出席者 68名

(3) 原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に関しては、平成17年11月末現在で参加しているグループ数は試料の採取を依頼している機関を含めて27機関である。

ロ 平成16年度産米の分析

平成17年1月～2月に前年から引続き平成16年度産米の分析を行い、98品種289点についての分析結果を集計し、平成17年6月初旬に日本酒造組合中央会会長及び分析を担当した各支部に報告した。

ハ 平成17年度産米の分析

早期分析(0次分析)

平成17年度産米の性質把握のための早期資料とするため、早期に収穫された酒米29点の事務局で行った分析データ及び各支部より報告を受けた造り初期の酒造概況、気象及び収穫に関するデータとを合わせ、本年産米の早期予測(0次)として平成17年11月30日付で関係者及び各支部に報告した。

1次分析

平成17年度産米については、12月はじめまでに分析の終了した43品種、95点について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成17年度産原料米の性質を予報し、平成17年12月16日付で関係者及び各支部に報告した。

2次分析

2次分析までの結果については、6月上旬に報告した。

(4) 刊行物発行等

・第29回酒米懇談会要旨集

(5) 研究連絡活動等

平成16年度酒造用原料米全国統一分析結果の送付

平成17年度酒造用原料米全国統一分析結果(0次)の送付

平成17年度酒造用原料米全国統一分析結果(1次)の送付